

会議録

会議の名称	平成 26 年度第 2 回西東京市子ども子育て審議会
開催日時	平成 26 年 5 月 22 日（木曜日）午前 9 時から
開催場所	田無庁舎 5 階 503 会議室
出席者	委員：森田会長、大沼委員、加藤委員、金子委員、小林委員、小牧委員、武田委員、中村委員、三浦委員、谷津委員、吉田委員、安部専門委員、上田専門委員 事務局：子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、保育課長 保谷、児童青少年課長 南里、子ども家庭支援センター長 磯崎、児童青少年課長補佐 名古屋、保育課保育係 小暮、子育て支援課調整係 阿久津、倉田 欠席者：古川副会長、網干委員、西澤委員、丸木委員、横山委員
議題	1 報告 ・学童クラブ委託施設の決定について 2 報告及び審議 (1) 専門部会について (2) 今後の審議スケジュールについて (3) 事業量の見込みの算出について（修正報告） (4) ヒアリングの報告について（前回からの繰り越し） (5) 次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定について 3 諮問 (1) 子ども・子育て支援新制度に係る教育・保育施設等の許可・運営基準並びに利用者負担について（諮問） (2) 今後の審議 4 その他
会議資料の名称	1 西東京市子ども子育て審議会代理出席要領 2 学童クラブ事業運営業務の委託について 3 教育・保育及び地域子ども子育て支援事業の「量の見込み」（修正版） 4 「量の見込み」の見直しについて 5 西東京市子育て・子育てワイワイプランの評価・検証報告書 6 子ども・子育て支援新制度の認可・運営基準等について (当日配布) 席上配布資料 1. 専門部会の構成の見直しについて（案） 席上配布資料 2. 西東京市子ども子育て審議会 議題とスケジュール 席上配布資料 3. 西東京市子育て・子育てワイワイプラン策定経過

	席上配布資料 4.次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定に向けた子育て支援の課題整理
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・委員の代理出席について（会議前に事務局から報告）</p> <p>・報告 学童クラブ委託施設の決定について （事務局が資料に沿って説明）</p> <p>○森田会長： ただ今の報告は、既に本委員会で1月に審議を行った結果であり、保護者の方々に説明会を開いたとのことである。ぜひとも多くの良い事業者に応募していただき、よい保育が展開できるように期待したい。資料2の「2 選定に当たっての考え方」とは、今回の選定についての考え方で、次回以降の選定には影響しないという理解でよいか。</p> <p>○事務局： 今回についてのみの考え方である。ただし、「児童館・学童クラブ併設館については、原則として一体的に委託を行う」という点については、今後も踏襲する方針である。</p> <p>・報告及び審議</p> <p>○森田会長： 本日の審議項目はかなり混み入った内容なので、まず、事務局から丁寧に説明していただき、理解を共有したいと思う。この子ども・子育て審議会では、国の子ども・子育て支援の大きな制度変更に沿って、基礎的自治体としての子育て計画を作っていくことになる。 今年度が最終年度となる「子育て・子育てワイワイプラン」と、法による計画が重なるため、この2つの計画を調整しながらひとつの計画として作り上げるという難しい作業となる。 加えて、まだ国でも決定しきれていない事項が多いので、ある程度の仮説を基に議論をしながら、国の方針が変わればその時点で修正をかけるという形で進めていかざるを得ないと思われる。非常に大変な作業となるが、その中でも議論を尽くしていきたいと思っているので、皆様のご協力をお願いしたい。</p> <p>1 専門部会について （事務局が資料に沿って説明）</p>	

○森田会長：

昨年度は調査や事業量の見込みについて議論してきたが、今年度は条例案や事業量の具体的な実施のための計画作りを中心に審議することになる。審議内容が昨年度とは変わることから、専門部会の構成を変えたいとのことである。また、議論についての透明性をより高めるために、この会議を原則公開にするという提案であるが、いかがか。

(異議なし)

○森田会長：

では、今後はそのように進めることとする。

○事務局：

専門部会の部会長については、子ども子育て審議会条例により、会長に指名していただくことになっているので、指名をお願いしたい。

○森田会長：

委員は事業者や利用者に関わっておられる方が多い。部会長については、事業者でも利用者でもない中立的な立場である、専門委員をお願いしたいと思う。そこで、事業計画部会の部会長は安部委員に、幼保基準部会の部会長は上田委員をお願いしたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

○森田会長：

では、部会長は決定とする。

○加藤委員：

今後は、専門部会を原則として公開するとのことだが、これまでの会議の議事録は公開せず、今後の会議の議事録について公開するということか。

○森田会長：

遡求規定はないので、基本的には今後の会議の議事録を公開することになるだろう。もし過去の専門部会での発言で、ぜひ公開してとどめてほしいというものがある場合は、意見書として出していただき、公開していくという形で対応したい。

○三浦委員：

専門部会が原則公開になると、傍聴はどうなるのか。

○森田会長：

傍聴も可となる。

2 今後の審議スケジュールについて

(事務局が資料に沿って説明)

○森田会長：

西東京市は、田無市と保谷市が合併する過程の中で、子どもの全ての問題を審議できる場が必要という考えから、「子ども審議会」を設けていた。その審議会が、今回の子ども・子育て支援法による計画を審議する場として非常に適切ということで、この審議会に作り替えたという経緯がある。スケジュールのとおり、今後の審議には条例案も含まれており、事業量は9月に東京都へ報告、子育て・子育てワイワイプランの素案は11月ごろまでと、審議事項が多岐にわたり、期間も限られている。スケジュールについて、ご質問等はないか。

(質問・意見なし)

○森田会長：

特に6月から8月にかけては大変なスケジュールとなるため、場合によっては追加の会議があるかもしれないが、ぜひご協力いただくよう、よろしくお願ひしたい。

3 事業量の見込みの算出について

(事務局が資料に沿って説明)

○森田会長：

量の見込みの見直しについては、今後、専門部会での検討を経て、最終的には審議会で決定するという手順を進めたいとのことである。この場では、この審議手順でよいか、承認していただきたいとのことである。

算出方法の考え方については、国から東京都、そして自治体と情報提供されるが、自治体が都や国へ算出結果を返すと、その結果を受けて国が考え方を変更する場合もある。変更された考え方が都を通じて自治体に示されれば、自治体は修正や見直しをかけることになる。

今後の議論の中では、実績とニーズとは異なるということ踏まえ、西東京市の子どもたちや家庭に対して、どのような制度設計が必要なのかをきちんと議論し、量の見込みを確定し、さらに制度の設計をしなければならないと思う。制度設計に当たっては、今回のニーズ調査や、各組織の代表の委員の方を通して集約される意見以外にも、声を出しにくい立場にある人のことも十分に汲んだものにならないと思っている。

量の見込みの見直しの審議手順については、よろしいか。

(異議なし)

4 ヒアリングの報告について（前回からの繰り越し）

（専門部会からの報告）

○安部専門委員：

ヒアリングの結果については、前回会議資料 8 及び今回の席上配布資料の 4 にまとめている。この中からポイントをご説明いただきたい。まず、上田委員からお願いしたい。

○上田専門委員：

「ミトンの会」と「ファミリー学級」でのヒアリングと、「ファミリー学級」でのアンケート調査結果について、報告する。

今回のニーズ調査の対象外だった妊婦の方々も含め、専業主婦、育児休業中の方等を対象にヒアリングを行った。総括としては、実家に近い所での子育てを希望して西東京市に引っ越して来た、家を購入できそうな地域として西東京市を選んだ、職場へのアクセスと家事・子育ての両立を考えて西東京市に転入した等の意見が、両ヒアリング先から出された。また、保育園への入りにくさから就労を諦めざるを得ない、近隣区部と比較して西東京市の子育て支援が不満であるという意見も多かった。

課題としては、西東京市での在住期間が短い妊婦に対して、妊娠期のうちに将来の見通しを持ってもらえるような保育等の子育て期の情報提供、求職中やパートで働いている母親への教育や保育に関する相談やコーディネート支援の充実、リフレッシュも含めた一時預かりの充実が挙げられると思う。また、西東京市に住み始めて間もない人の仲間づくりも、妊娠期からの大きな課題であることが分かった。

○安部専門委員：

ただ今の報告では、西東京での子育て支援を考える上で、在住期間が短い人への支援、一時保育の充実、幼稚園での預かり保育の充実がキーワードとして挙げられると思う。次に吉田委員にお願いしたい。

○吉田委員：

「子育て応援者会議」でのヒアリングについて、報告する。

子育て応援者会議でのヒアリングは、対象者は少なかったものの、詳細な話を聞くことができた。イクメンの父親が多くなってきてはいるが、父親は仕事で不在の時間が長いため、母親が出産後に頼る人がいなくて孤独に陥るという意見が目立った。0歳の7～8割は在宅で子育てされているので、その母親たちの孤立感、不安感をこの新制度の中で救うことができればと感じた。0歳から保育所での生活が必要という意見からは、母親が家庭での子育てに心配な部分があるということが推察される。親同士が交流でき、悩みが軽減できるような場が必要という意見もその表れだと思われる。異年代の親たちが集まる場があれば若い母親の

成長も期待できるので、地域にそのような場をつくっていくことが必要だと思った。そういう意味で、公民館で実施されている保育付き講座は人気があるのだと思う。

また、訪問型支援や、子育て支援団体等による身近な所での小規模な拠点事業など、行政の支援だけでなく、多様な形の支援が必要と感じた。

○安部専門委員：

ただ今の報告では、母の孤立、親自身の学習の場の保障、発達障害の子どもたちの支援がキーワードとして挙げられると思う。続いて、加藤委員に報告をお願いしたい。

○加藤委員：

「西東京市パパクラブ」でのヒアリングについて、報告する。

大きくは、父親への情報提供や教育の場が少ない、学童クラブの預かりの時間と保育園との時間の整合性がとれていない、病児・病後児保育を使いやすくしてほしいという、3点があったと思う。これらに共通するのは、子育てと両立して働きつづけやすい環境をつくってほしいということと、働き方が変わらなければ男性は子育てに関われないので、働き方を含めてトータルで変えたいという思いである。

父親への情報提供については、男性が育児参画したいと思っても、各種教育の機会がある母親と異なり、沐浴の仕方など教えてもらったことはできるが、それ以外は何をしたらよいか分からないのが実情で、例えば母子手帳の男性版のようなものを配布する等、早期からプッシュ型で情報提供する必要があり、母親の手伝いではなく父親の立場としてやるべきことをまとめた内容がよいという提案が出された。学童クラブと保育園の時間的な整合性については、これまでと同様に、預かり時間が短くなることは、朝夕の少しの時間であっても影響が大きいため、改善の要望が出された。病児・病後児保育については、利用しないのではなく、現状の預かり時間では結局仕事に間に合わず休むこととなり、利用が出来ない状況である。預かり時間の拡大、緊急時の対応、民間を使った際の補助を考えてほしいという要望が強かった。その他、子育て世代は育てやすさを重視して引っ越す方も多いため、西東京市の子育てしやすさをアピールし、人を呼び寄せて税収をアップして、それを子育て支援に充てるという循環を見据えて考えるべきだという話も出された。

○安部専門委員：

先ほどの森田会長の話の中に「声を出しにくい人たち」という表現があったが、そこに父親が入るのではないかと思った。男性が父になることに関する支援や、計画策定時に、父親の話を聞いていくことがとても重要だと感じた。最後に、三浦委員から報告をお願いしたい。

○三浦委員：

学童クラブ利用者へのヒアリングについて、報告する。

主に小学校高学年のお子さんがいる方を対象に、高学年での放課後の居場所を中心にお話を伺った。高学年であっても子どもの居場所は把握しておきたい、いろいろな大人がゆるやかに子どもに関わってくれる場が欲しい、子どもたちだけで過ごしても安全な場が欲しい等の声や、児童館の活用を重視する声が多いのが印象的であった。

また、共働きの家庭にとって、誰かが「お帰り」と言ってくれるようなリラックスできる生活の場として、学童クラブはとてもありがたいとか、学童クラブ以外にも子どもが居場所にできるような場が地域の中にいくつもあって、そこから自分で居場所を選び、何かあった時には、そこで大人がサポートしてくれるような場があれば、働く親としては安心できるといった意見も出された。子ども自身が自分を出せる場所が複数あって、子ども自身に選択させてほしいという意見は、高学年に特有と思われ、自立し始める時期に、親や地域のさまざまな大人の意見を聞く場が必要だと考えられていることがうかがわれる。

保護者については、保育園の保護者と大きく違う点として、特に男子のお子さんの父親など、ヒアリングにはなかなか参加されないものの、土・日にはスポーツ等を通して子育てに関わっている方が多いというのも特徴的だと思った。

○安部専門委員：

今の報告では、乳幼児とは全く違う学童期に応じた支援、特に子どもから自立した大人になっていくことの支援の必要性を感じた。学童期には、安全・安心に遊べる場や、自分を出せる場をつくっていくことが大事で、学童や児童館という場所だけではなく、市全体が子どもに優しいものにならないとうまくいかない。それを基本理念やワイワイプランの中にうまく入れ込んでいければと思う。また、災害時に子どもをどう支えられるかも、視点として組み込んでいければと思った。

○森田会長：

これらの報告はワイワイプランの策定に大きく関わることなので、もう少し時間を取り、皆さんの気付かれた点等を出していただいて、次の議論につなげたいと思う。ご意見、感想等はないか。

○中村委員：

今の報告の中で言われていたとおりだと思う。

○森田会長：

学童クラブについては、国は 40 人という定員を決めようとしている。それは、質的な担保をしたいという考え方からなのだと思う。今、保育や子どもの育つ環境をどう考えて整理していくのが問われている。

自治体によっては、小学 2 年生くらいから子どもたちの中に自立の芽生えがあるという考

え方で、小学校低学年以上の子どもを対象に、保護と自立の間にあるような放課後の居場所を用意するよう動いている所もある。西東京市でも、子どもが保護的な存在としてケアされる段階から自立し始めていく段階への支援整備について、議論が必要だと思った。

○三浦委員：

場の用意だけすればいいというわけではないと思う。成長期には、いろいろな関わりの中でいろいろな壁にぶち当たる。その時の心を受けとめてくれる場所が必要なのである。この点に関しては、今の国の議論の中ではあまり出てきていないように感じる。場所さえ用意すればというような形になりがちではないか。

保育に関しては、資格を持った保育士や、子どもを育てる上でのスキルが確立した人が見てくれる環境があるが、小学生の子どもの心は、どこで受け止めてもらえるのか。親が働いていて昼間家にいない家庭の子どもなどは、嫌な気持ちになることがあって家に帰っても、誰にも受け止めてもらえない。そうなった時に子どもたちが何をしだすか、とても不安である。そういう子どもたちに寄り添える場所としては、ただの公園や遊び場の提供では足りないし、そこに子どもは居着かないのではないかと思う。

○森田会長：

西東京市ほど児童館の多い自治体はそうあるわけではないのに、この状況ということは、西東京市の児童館の質についても考えなければいけないのではないか。また、放課後の居場所や、学童クラブ、児童館についても、今後さらに議論する必要があると思った。西東京市は児童館や子どもの遊び場がバランスよく配置されており、子育てしやすい環境なので、子どもが小学生になってから西東京市を選んで、転入する人もいると聞く。

○三浦委員：

確かに、子どもが小学校に上がってから引っ越して来たという方は多い。

○森田会長：

そのような中で、放課後の居場所や小学校高学年になったときについての不安感があるとすると、もう一段踏み込んだ児童館等のあり方についての議論の必要があると感じている。

○武田委員：

小学生の子どもの成長は、保育園時代と全く違う。この時期の成長を、どのように保障していくかが問われていると思う。従前に比べれば制度も随分充実してきたと思うが、指導員のスキルの問題や、ハンディを持つお子さんを含めたさまざまな子どもたちへのフォローは、一様ではない。併せて、小学校に入ると、放課後は稽古事等を含め、ご家庭の希望も多様になる。そういう中で、学齢期の子どもが安心して集える環境を考えるときには、保育園

時代とは全く違った視点を持っておく必要があると思う。

また、異年齢の 40～50 人という集団がひとつの場所で過ごすには、空間としての広さも問われると思う。

○加藤委員：

学童期の子育てへの父親の関わり方について、土・日でもなかなか子育てに関われる状況ではないものの、子どもの遊びやスポーツの支援をしている父親もいるという話があったが、そういう状態を私は非常にもったいなく感じている。

パパクラブのヒアリング報告では、「PTA も母親が多い」とあるが、実際に、保護者会や保連協の会に出席される男性は私 1 人だけだったり、50 人以上集まった中でも 2 人くらいという状態で、父親が子育てへ関わるのは遊びやスポーツだけで、PTA 等の会議への出席や子育てを含めた家事全般は母親がやっているというのが実情である。

これでは、お母さんは今までと同じ状態で、自由が少なく、就労もできず、家庭で孤立してストレスをため込むことになるので、男性側がもっと子育てに参画して、お母さんがやっていることを減らしてあげないといけないと思う。そのためには、男性側への教育が必要だし、女性側にも、PTA 等がお母さんばかりというのはおかしいという感覚を持てるようにすべきである。そのような教育的なことが、子育ての初期の段階からできればと思っている。

○武田委員：

一時保育について、利用しにくいという話があったが、当日にキャンセルされる方も非常に多く、結果的に空きがあるという状態がかなり起きている。これは予約システムに問題があるのだろうと思うので、一時保育の予約システムについても今後の議論の中で検討していただければと思う。

○森田会長：

これらのご意見についても、事業量の策定やワイワイプランのところで議論したいと思う。また、住民の責務と権利との調整、今の子どもや子育て家庭にとって何が重要か、それをどのような事業に盛り込むかも議論したいと思っている。資源や予算は限られているので、どこに市の予算を投じてもらいたいかにについても、ご意見をいただきたいと思っている。

5 次期「西東京市子育て・子育てワイワイプラン」の策定について

(基本理念・基本方針について、事務局が資料に沿って説明)

○森田会長：

ただ今の説明のとおり、基本的に、基本理念・基本方針については、現行の子育て・子育てワイワイプランのものをそのまま生かし、文章の部分について、現代に即したものとする

ために手直しが必要なところのみ、若干の修正または加筆をするという形で進めたいと考えている。修正・加筆については、「課題整理」という資料を根拠に考えていただければと思う。このような形で進めてよろしいか。

(異議なし)

○森田会長：

では、そのように進めさせていただく。そこで、皆さんには宿題として、「課題整理」を読んでもらう。今日の議論も踏まえて、加筆・修正が必要なところがあれば、事務局にお寄せいただきたい。そのような意見は何日までに事務局にお寄せいただければいいか。

○事務局：

6月13日までにいただきたい。

○森田会長：

では、ご意見があれば期限までに提出いただき、それを整理して、次回、この場で確定するという流れにしたい。なお、専門部会でご議論いただいて、ご意見を出していただいても結構である。基本理念・基本方針以下の施策・事業については、これまでの資料を基に、専門部会で修正や新たな事業の創設が必要かどうかを議論いただくことになる。今の計画では重点施策を設けていたが、今回も重点を抽出するのか。

○事務局：

今後の審議によって、考えたいと思っている。

○森田会長：

重点施策は設けるべきだと思う。重点施策としていつも意識し、議論の中心としたいものはあるはずなので、ぜひご提案いただきたい。

・諮問

1 子ども・子育て支援新制度に係る教育・保育施設等の許可・運営基準並びに利用者負担について（諮問）

○森田会長：

委員の皆さんには、市内の子どもたちや子育て家庭のさまざまな環境について、大変な審議をしていただいている。市長から委員の皆さんへ、何かメッセージがあればお願いしたい。

○市長：

委員の方々には、日ごろから市の子どもに関する行政にご支援をいただき、御礼申し上げます。西東京市も合併してから十数年が経ち、この4月から第2次総合計画がスタートしたところである。この第2次総合計画の施策では、学校教育の環境の充実、地域での家庭との連携、子どもの参画の推進等、子育てに関していろいろな施策を立てている。私自身、東京都で児童福祉に関わっていた時に、家庭教育や地域力などを含めた子育てが必要だと実感しており、ここで生まれ育った子どもたちが、誇りを持てるまちにしたいと思っている。子育て支援については、保護者をはじめ、市としても非常に関心の高い課題であるということをお汲みおきいただき、活発なご議論をいただくよう、お願いしたい。

○森田会長：

ただ今、諮問を受けたので、今後、審議していく。西東京市の子育ての環境整備は、児童館を中心にかなり進んできたが、環境がいいので子どもたちを連れた世帯の流入が増え、受け皿が足りなくなっている。まちづくりや市政の発展のために、議会等のご協力をいただき、子どもたちが健やかに育っていく環境をつくり上げていただきたいと思います。

2 今後の審議

(事務局が資料に沿って説明)

・その他

○事務局：

次回は、専門部会を6月26日に予定している。7月以降の日程については、土・日の開催を含めて調整させていただきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

○森田会長：

以上で本日の審議会を終了する。